

巾着田

～高麗川が描いた風景～

曼珠沙華の群生地としても有名です。



巾着田



曼珠沙華の群生



整備された巾着田

高麗川の蛇行がつくった巨大な巾着

上空から見ると蛇行した高麗川がちょうど巾着のようにぐりと囲んでいます。もともとは水源確保のためのダム計画がありましたが、撤回され、日高市（当時は町）が観光施設として整備することになりました。

現在「巾着田」は散策路や雑木林、運動場が配された公園として整備され、レンゲ、コスモス、菜の花などが四季を彩っています。とくに数百万本といわれる曼珠沙華（まんじゅしゃげ）の群生地は素晴らしく、9月の下旬ともなると一面を、真紅の絨毯が敷き詰めます。また野鳥観察ポイントとしても知られ、カワセミやコイサギ、アカゲラなど珍しい野鳥に出会うことができます。

▶ 名前の由来

日高市内を流れる高麗川の蛇行で形作られ、見るときんちゃくに似ているので巾着田（きんちゃくだ）と呼ばれるようになりました。

しかし、とにかく広いので、地上からではなかなか巾着の形を実感することはできません。でも、巾着田から北西に見える日和田山の山頂に近いこの鳥居からなら、巾着の形が見渡せます。巾着田から歩いて約30分ほどで到着するこの鳥居からは、ほかに秩父連山や富士山なども見られます。



巾着田全景（日和田山から撮影）

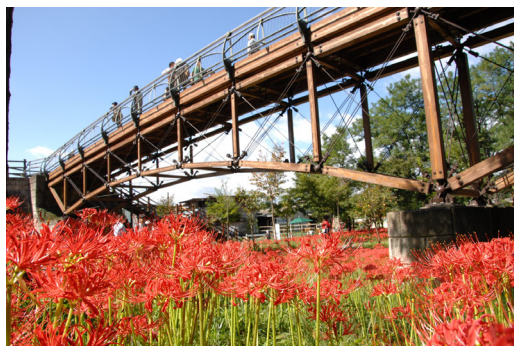
▶ 曼珠沙華が群生した巾着田

歴史的には昭和40年代後半に、巾着田の用地を当時の日高町が取得し、利用について議論される中で、昭和50年代～60年代頃に草藪であった河川敷地の草刈りを始めると、そこに生息していた曼珠沙華の姿が見られるようになりました。群生の規模が予想外に大きく、その美しさを報道機関等が紹介するようになると、多くの方々の関心を引くようになりました。巾着田周辺に曼珠沙華群生地が形成された理由についてですが、巾着田は高麗川の蛇行により長い年月をかけて巾着の姿を形づくり、その内側に耕地が形成されましたが、河川の増水時等に上流から流れてきた物の中に混じっていた球根が、漂着し根付いたと考えるのが妥当と思われる。

コラム あいあい橋

あいあい橋は、巾着田の高麗川に架かる歩行者専用橋で、1996（平成8）年3月完成しました。全長91.2メートルの日本最大級の木造トラス橋で、同年11月には「彩の国さいたま景観賞」を受賞しています。

※トラス構造…「トラス」は三角を意味する言葉で、各部材を三角形に組み合わせて強度を確保したもの



高麗郷の民族資料館と巾着田を結ぶ優美な「あいあい橋」は橋長91.2mで、木製トラス橋としては日本一の長さを誇ります

アクセス

巾着田（管理事務所）

交通：西武池袋線「高麗駅」より、国際興業バス「高麗川」行き「巾着田」下車、徒歩約3分。または西武池袋線「高麗駅」下車、徒歩約15分。
駐車場完備（有料）

住所：埼玉県日高市大字高麗本郷125-2



巾着田

